

8 その他

(1) 面白い話、可哀そうな話などの区分

本シリーズの話を、図書館や公民館などの読み聞かせや語り聞かせなどに活用する方もおられると思います。

その際、どういう話を選んでいいか迷われることもあると思いますので、ここでは、本シリーズから、「面白い話」、「可哀想な話」などの区分で代表的な話を取り上げてみました。

ア 面白い話

面白い話といったら、昔から一番人気なのが、屁を主題とした話のようです。屁で人を吹き飛ばすとか屁で雁を落とすとか、屁の特技も多種多様です。

本シリーズでは、「屁の仇は屁で討つ」(No. 82)、「屁ふり嫁さんの雁落とし」(No. 83)、「ポンポコリンの屁(屁ひり爺)」(No. 85)などがその話ですが、特に No. 83 は全国的に人気があり、屁の話の代表格と言えるものです。

イ 可哀想な話

可哀想な話の代表的なものは、継子話の「父さん恋しやチンチロリン(継子と尺八)」(No. 63) だと思います。

他の継子話は継子が最後には幸せになるものがほとんどですが、この話だけは、継子が殺されてしまいます。そして、尺八の音色を借りて、自分が死んだことを父に伝えるという話ですが、尺八の音色と共に、語り手、聞き手の共感を呼び、継子話の中でも一番人気の話です。

また、異類婚姻譚の中でも異類との悲恋物語も、可哀想な話に入ると思います。例えば、「月見草の花嫁」(No. 59) や「杵島山の松の精と三弦弾きの娘」(No. 27) などはその典型的なものです。

ウ 怖い話

怖い話も、特に子供には人気のある話です。

この話の代表的なものが、「蕎麦の根の赤い由来(神様の金の鎖)」(No. 55) です。山姥の怖さが良く出ている話で、県内でも山間部を中心に広範囲に伝承されています。語り手によると、山姥が登場する話は、「やまんば話」と呼ばれて、子供達の間で人気があったそうです。

もうひとつあげると、「飯を食べん嫁さん(五月五日の菖蒲由来)」(No. 91) も怖い話です。特に、嫁さんの頭の口に飯を投げ込む場面は、怖いイメージとして定着しているように思われます。

エ 不思議な話

「弘法大師とえつの魚」(No. 32)、「おとわ観音由来(大歳の火)」(No. 16)、「貧乏神と福の神」(No. 大歳の客)などが該当すると思います。特に、後者の2話は「大晦日の晩には不思議なことが起こるものだ」という考えが日本人の根底にある話だと言われています。

オ ほのぼのとした話

最後に、私の好みも入りますが、次のような話は本シリーズの中でも綺麗な話で、これからも語り伝えて行ってほしい話です。

- 「餅つきにきた堤の主 (大蛇の餅つき)」(No. 94) ※ほのぼのとした話
- 「貝の恩返し (貝姫)」(No. 18) ※異類婚姻譚の中でも綺麗な話
- 「猫と和尚さん (猫の恩返し)」(No. 69) ※動物報恩譚の中でも綺麗な話

(2) 参考文献

最後に、昔話についてもっと知りたい、という人のために、私のお勧めの文献等を少し紹介させていただきます。

(昔話の入門書)

- 「昔話は生きている」(平成8年、稲田浩二著、筑摩書房発行)
昭和の時代に生きていた昔話、語り手の実像を、筆者の体験を通して分かりやすく解説したものです。すぐれた語り手との出会い、昔話についての新しい発見など、研究者としての驚きや感動も交え、昔話がどういうところでどのようにして伝承されてきたのか、昔話の生命とは何か等、昔話の本質が分かりやすく解説されています。
- 「改訂 昔話とは何か」(平成21年、小沢俊夫著・発行)
グリム童話の第一人者、小沢俊夫氏が、ヨーロッパの昔話との比較を通じて日本昔話の文芸的特質やヨーロッパと違った日本の昔話の価値観等を考察し、昔話の現代的意義を問うものです。

その他、次の本も、昔話の基礎を勉強するのにお勧めです。

- 「日本昔話ハンドブック」(平成13年、稲田浩二・稲田和子編、三省堂発行)
- 「世界昔話ハンドブック」(平成16年、編者代表：稲田浩二編、三省堂発行)

(全国の昔話集)

- 「日本昔話百選」(昭和46年、稲田浩二・稲田和子著、三省堂発行)
全国の昔話から選び抜かれた話100話を解説付きで紹介しています。著者によると、「昔話は生きている」の姉妹本とされています。

(佐賀県の昔話資料)

- 「日本昔話通観 第23巻 福岡・佐賀・大分」(昭和55年、稲田浩二・小沢俊夫責任編集、同朋舎発行)
日本全国(北海道のアイヌ民俗から沖縄)の昔話文献等を集大成したシリーズ本の北部九州版です。この中に、昭和50年頃までに佐賀県内で採集された昔話が多数掲載されています。
- 前述2-(1)に記した調査資料集(200話以上の話が掲載されている調査誌)

(佐賀県の昔話についての考察等)

- 「肥前口承文芸考」(平成11年発行、宮地武彦著・発行)

故宮地武彦先生が平成10年頃までに発表された論考等を集めたものです。宮地先生による佐賀県の昔話についての研究論文等が収められており、特に、「肥前の笑い」と題された佐賀県の笑話に対する論考は秀逸です。

○ 「宮地武彦先生追悼集」(平成28年発行、宮地武彦先生追悼集編纂委員会編集・発行)

第三章に、佐賀県の代表的な語り手の話が載った「蒲原タツエ唄の語る843話」(平成18年、宮地武彦著、三弥井書店)や「肥前伊万里の昔話と伝説(昔話研究資料叢書別巻)」(昭和61年、宮地武彦著、三弥井書店発行)の解説が掲載されている他、宮地先生の学士論文等の解説も掲載されています。また、佐賀県を代表する昔話20話を選定し、原話を解説付きで載せています。